

仙台藩の参勤交代

仙台市博物館 学芸企画室 黒田 風花

第2回

参勤交代とは

江戸時代の参勤交代は、諸大名が一定期間交代で幕府のある江戸に滞在し、江戸と国元を行き来する制度です。幕府が全国の大名を統制し、幕府と大名との主従関係を確認するために行われました。寛永年間（一六二四～一六四四）に制度として確立し、整備されていったと考えられています。

仙台藩では、若くして亡くなった九代藩主伊達周宗を除き、初代政宗から十三代慶邦に至るまで、十二人の藩主が参勤交代を行いました。

参勤交代の道

江戸と仙台の間は約三百六十キロメートルあります。仙台藩では多くの場合、奥州街道を通って参勤交代を行いました。藩主は、仙台藩領では岩沼要害（岩沼市）や白石城（白石市）、他藩領では須賀川宿（福島県須賀川市）や小山宿（栃木県小山市）、粕壁宿（埼玉県春日部市）などを休息や宿泊に利用しました。道中の用事や天候などによる通行止めがない時は、七泊八日から九泊十日で江戸と仙台を行き来したと考えられています。参勤交代の道中、寄り道が許される場合もありました。その一つが、徳川家康を祀る日光東照宮（栃木県日光市）への参拝です。日光へ向かう日光街道と奥州街道は、宇都宮城下（宇都宮市）で分岐します。日光東照宮に参拝する時には、一泊二日かけて宇都宮・日光間を往復しました。

また、江戸から岩槻城下（さいたま市）を経由して日光へ向かう道として整備された日光御成街道や、現在の国道六号沿いの奥州浜街道、奥州浜街道から棚倉（福島県棚倉町）を経由して矢吹（福島県矢吹町）で奥州街道に合流する棚倉街道を通じて参勤交代を行うこともありました。

楽山公行列図巻

仙台藩の参勤交代は、少ない時で百人、多い時には三千人ほどの行列をなしたとされます。写真の資料は、天保十三年（二八四二）に慶邦（楽山）が藩主として初めて仙台に国入りした時の行列を描いた「楽山公行列図巻」です。長持、挟箱、具足櫃などの道具や、鉄砲、弓、毛槍、長刀などを持ち、行列に加わるたくさんのお供の姿が描かれています。この時のお供の数は約千五百人に及んだとされます。行列の後半には、馬や駕籠に乗った重臣とその家中が続いています。その中に



楽山公行列図巻(部分) 仙台市博物館蔵
上：徒歩の侍や小姓に護衛されながら駕籠に乗る13代藩主伊達慶邦 下：白石城主片倉宗景の行列

は、白石城主だった片倉宗景の姿もあります。この国入りの際、宗景は江戸ではなく国元にいましたが、福島（福島市）まで慶邦を迎えに行った後、白石城で慶邦をもてなしました。宗景のほかにも、仙台藩の南境の宿場である越河（白石市）で奉行たちが慶邦を迎えました。この資料には、途中から合流した家臣たちを含む長い行列のようすが約四十七・八メートルにわたって詳細に描かれています。

仙台市史

全32巻

市制100周年記念事業として編さんが行われた仙台市史は、原始から平成元年に仙台が政令指定都市となるまでの事象をあつかい、最新の研究成果を盛り込んだ内容になっています。

「通史編」9巻のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」13巻、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」9巻に、「年表・索引」1巻を加え、全32巻が刊行されています。仙台市史を通して、仙台市の歴史に思いをはせてみませんか。購入方法等は博物館HPでご覧いただけます。



- 通史編 原始、古代中世、近世1～3、近代1・2、現代1・2
- 資料編 古代中世、近世1～3、近代現代1～4、仙台藩の文学芸能、伊達政宗文書2～4（伊達政宗文書1は完売）
- 特別編 自然、美術工芸、市民生活、板碑、民俗、城館、慶長遣欧使節、地域誌（考古資料は完売）

臨時休館のお知らせ

仙台市博物館は、施設設備の緊急点検のため当面の間、臨時休館しています。

利用者の皆さまには、ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

再開館の日程が決まり次第、当館のホームページや公式ツイッターでお知らせいたします。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索 ※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。
▶博物館ツイッター @sendai_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074